

小名浜の新たな魅力創造事業等の取り組み

施工場所:いわき市小名浜(小名浜港周辺地区)

1. はじめに・背景など

- 小名浜港及びその背後地では、復興土地区画整理事業等の各種復興事業(ハード事業)が進められており、「港と市街地の一体的なまちづくり」の実現に向け、小名浜のまちが大きく変わろうとしている。
- 各種復興事業が進められる中、福島臨海鉄道貨物ターミナルの移転跡地には、津波防災機能を付加した民間商業施設(イオンモール)の整備誘導や津波避難施設の整備、港湾関係官公庁舎の集約化のほか、市道本町2号線(汐風竹町通り)の整備も行われ、既成市街地への回遊性の向上を図り、港と一体となった防災性の高い魅力ある都市拠点の形成が進められている。
- 一方、地域においては、複合商業施設(イオンモール)の出店影響(インパクト)が懸念され、出店を見越した小名浜地区商業機能の活性化を目的とした既成市街地の賑わいづくりに取り組んでいる。
- 県においては、小名浜を本県・東日本復興のシンボルとして、また、大規模店と地域商業の連携モデル地域となるよう、「福島県総合計画ふくしま新生プラン」の「13の重点プロジェクト」に位置付けられる「小名浜の新たな魅力創造事業」によるソフト支援を行うことになった。

<臨側からの眺望>

2. 経緯など

【小名浜の新たな魅力創造事業】

- H25年度 地区関係団体・関係機関等と実施項目(取り組み視点)の抽出
- H26年度 実行委員会と部会の体制づくり、視点毎の短期的方策検討
- H27年度 各視点毎方策の実証実験等による検証、とりまとめ

【元気ふくしま地域づくり・交流促進事業等】

- H26年度 ポケットパーク整備に向けたワークショップ(計3回)
- H27年度 ポケットパーク整備(まちづくり支援事業)



※本図は、イメージであり、実際の状況と異なります。又、イオンモールを含め各施設は基本設計時点のものであり、決定した内容ではありません。

3. 内 容

- (1)賑わい創出 ①活動支援体制・オープンスペース等の使用ルール準備
②回遊促進方策の展開(既存イベントによる回遊促進策の実証等)
- (2)景観形成 ①景観に対する意識の高揚(意識啓発に資する取組)
②良好な景観づくり
- (3)交通誘導 ①交通を分散させるための交通誘導(案内誘導に係る実証実験、広域案内マップの作成)
②各施設の連携による駐車場の円滑な利用(満・空情報把握に係る検証、駐車場案内マップの作成)
③新小名浜魚市場といわき・ら・ら・ミュウ間の交通錯綜軽減

4. 進捗状況・創意工夫など

- 「賑わい創出」及び「景観形成」に係る実証実験等については、部会委員を含む地域の方々にも参加を促し、回遊促進策や意識啓発に資する取り組みを行った。



小名浜絆まつりにおける
汐風竹町通りの歩行者天国化



花壇育成プロジェクト等を
活用したプランターづくり



ポケットパーク整備予定地の
美化・清掃(草刈り)活動

5. おわりに

- 汐風竹町通りを含むポケットパーク等の公共施設については、当面任意の「管理に関する協定」に基づく日常管理と施設の利活用をもらい、将来的に「都市再生特別措置法に基づく官民連携まちづくり」への移行が望まれる。(「都市利便増進協定」による管理運営、「道路占用許可の特例」活用等)
- 今後、小名浜らしい街並みの形成やオープンスペース等を活用したイベント等を定期的・継続的に開催し、小名浜地域の魅力向上やエリアマネジメント推進組織としての確立を地域に期待したい。